

次の文は、小学6年生の光くんが、冬休みの宿題として提出した自由課題の一部です。
これを読んで、問に答えなさい。

今年のお正月、僕は家族といっしょに、父の親戚が住んでいる新潟県にスキーに行ってきました。僕が住んでいる横浜とは違い、新潟は雪がたくさん積もっていて、家族全員で楽しくスキーができました。また食べ物もとてもおいしく、本当によい旅行でした。そこで、僕は帰ってから、新潟についていろいろと調べてみました。

新潟のあたりを「越後」ということがあります。むかしは日本海に面した日本の中部地域を「越の国」といっていました。そして(a)7世紀の後半ころに、「越の国」を3つにわけて、新潟県のあたりを「越後」、その西側に接して位置する(①)県のあたりを「越中」、そして今の福井県のあたりを「越前」というようになりました。

武士の時代になると越後にも守護がおかれ、室町時代には(②)氏が、守護をつとめていました。戦国時代の(②)謙信は、武田信玄と川中島でなんども戦ったことで有名です。

江戸時代には越後は小さな藩にわかれ、それらを治めていた大名も、いくどもいれかわりました。そのなかには松平氏のように、(b)徳川家の親類である大名もありました。また江戸時代には米や絹織物の生産に力がいれられ、ここから「天下の台所」といわれていた(③)まで、(④)航路を通じて、米をはじめとする多くの物資が輸送されていきました。また調べていておもしろかったのは、江戸時代の後半に、越後に伝わるいろいろな話をつづった『北越雪譜』という本が(c)江戸ではとてもよく読まれ、この本をおいていない貸本屋は評判が落ちるほどだったということです。

江戸時代の終わりころ、(d)日本はアメリカと条約を結び、貿易をはじめることになりました。その条約には、(e)外国に対して日本の5つの港を開港することが書かれていて、新潟もそのひとつでした。そしてこれとほとんど同じ内容の条約を、この時期に各国と結んでいきました。新潟というところは、外国の人からみても、日本の貿易港として発展する可能性をもっていたところだったようです。

明治になると、外国との貿易はおもに太平洋側の港で行われるようになり、新潟はとり残されてしまいました。また国内の物の輸送でも、明治の終わりころからは(A)が発達していき、港の役割は小さくなっていきました。

昭和のはじめに新潟港はあらためて整備され、1931年に日本があらたに占領した(⑤)へ向けて、人や物を運ぶ拠点となっていきます。しかし、かえってそのために、太平洋戦争の末期にはアメリカ軍に攻められ、港は機能を失い、町も被害を受け、1945年8月の敗戦を迎えました。

戦後の新潟は、米作りを中心とした農業と、港の周辺の工業地帯を中心に復興し、発展していきました。

1973年には、新潟空港とロシアのハバロフスクを結ぶ定期航空路が開けられました。また1982年になると、上越新幹線(新潟～大宮)が開通し、1991年には東京駅までのびました。それまで4時間ほどかかっていたのが、半分の時間で行けるようになったのです。さらに1985年には、新潟と首都圏を結ぶ高速道路(関越自動車道)が全線開通しました。(f)新幹線や高速道路は、新潟の人々の暮らしを大きく変えました。

問1 文中の(①)～(⑤)にあてはまる言葉を答えなさい。

問2 下線部(a)のころの日本について述べた文として正しいものを、ア～エから1つ選びなさい。

- ア. 聖武天皇が奈良に大仏をつくった。
- イ. 朝鮮半島から来た渡来人たちが、焼きものの技術を伝えた。
- ウ. 中国にならった政治のしくみが作られていった。
- エ. 平城京に都が移された。

問3 下線部(b)の大名をなんというか、答えなさい。

問4 下線部(c)について、江戸時代に、本が普及^{ふきゅう}していった理由として間違^{まちが}っているものを、ア～エから1つ選びなさい。

- ア. 武士以外の人々の中にも、文字を読める人が増えてきた。
- イ. 中国から大量の紙が輸入され、本の材料費が下がった。
- ウ. 都市の住民の中に、学問や文化を楽しむ人が増えてきた。
- エ. 印刷の技術が向上し、本がたくさん作られるようになった。

問5 下線部(d)の条約の名前を答えなさい。

問6 下線部(e)について、5つの港に入らないものを、ア～エから1つ選びなさい。

- ア. 仙台^{せんだい} イ. 横浜^{よこはま} ウ. 函館^{はこだて} エ. 長崎^{ながさき}

問7 文中の（ A ）にあてはまるものを、ア～エから1つ選びなさい。

- ア. 馬車 イ. 飛行機 ウ. 自動車 エ. 鉄道

問8 下線部(f)について、新潟の人々の暮らしと新幹線との関係について述べた文として正しいものを、ア～エから1つ選びなさい。

- ア. 仕事や観光の目的で、首都圏から新潟を訪問する人が増えた。
- イ. 新幹線で物がはやく運べるようになり、野菜や果物^{くだもの}の出荷^{しゅっか}が増えた。
- ウ. 新幹線は雪で止まってしまうことが多く、冬の間はかえって不便になった。
- エ. 首都圏から移住する人が増え、新潟県の人口が増加した。

新潟県では、2004年10月に震度7の地震^{じしん}がおき、たくさんの被害が出ましたが、去年の7月にも再び震度6の地震^{じしん}がおきました。僕も最初に地震のニュースを知ったとき、親戚の家はどうなったのか、とても心配しました。今回、親戚のおじさんから直接きいたところによると、かなりゆれたそうですが、家そのものは大丈夫^{だいじょうぶ}だったとのことでした。でも地震もこわかったけど、(g) 原子力発電所で起きた火災^{かさい}のことが、あれからずっと気になっているのだそうです。去年の地震では、震源地^{しんげんち}の柏崎市^{かしき}にある原子力発電所がとまりました。今回の旅行で、そこを見学したいと思いましたが、まだ中には入れてもらえず、見学はできないそうです。僕たちの生活に欠かすことのできない電気を送ってくれる(h) 発電所というものについて、これからも関心を持っていきたいと思いました。

問9 下線部(g)について、原子力発電所で火災がおきると、もっとも心配されるのはどのようなことでしょうか。

問10 下線部(h)について、原子力発電以外の発電のしかたについて、日本で実際に用いられているなかで発電量の多いものを、2つあげなさい。

新潟県はとても雪の多いところです。親戚の家でも、大雪の日のあとは雪おろしをしなくてはならず、本当に大変なのだそうです。町のなかで見かけた信号機が、たて型で何か変だなと思って親戚のおじさんに理由をきいてみたら、たて型にすることで、信号機に積もる雪の量を少しでも減らすためなのだそうです。めずらしいので写真をとってきました。



問11 光くんがとってきた写真の例のほかに、積雪への対策として新潟県などで行われている工夫にはどのようなものがありますか。3つあげて説明しなさい。

横浜は新潟ほど雪は降りませんが、一年を通じて、新潟と横浜の降水量がどのように違うのか、調べてみました。

表 1 横浜と新潟の月別平均降水量 (mm)

	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
横浜	55.5	73.4	134.0	149.1	138.1	192.4	169.0	148.3	232.4	184.9	108.4	43.2
新潟	180.3	128.0	104.6	93.6	103.3	128.3	178.2	142.7	163.0	148.9	200.6	204.4

(『日本国勢図会 2007/08年版』より)

横浜で最も降水量が多いのは9月ですが、それは秋雨前線や(⑥)によって降る雨です。一方、新潟の降水量が最も多いのは12月ですが、それは(B)ということによるのだそうです。

問12 文中の(⑥)にあてはまる言葉を答えなさい。

問13 文中の「 B 」に入る文章を、風・海・山という3つの言葉を使いながら答えなさい。答えるときには、たとえば「風」という言葉を、「～風」のように、ほかの言葉とつなげて使ってもよい。

現在、新潟県の産業といたら、まずあげられるのが農業でしょう。今回の旅行で知ったのですが、家でも時々食べるおいしいお米は「コシヒカリ」といい、新潟県で生み出された品種だそうです。「コシヒカリ」の「コシ」は「越の国」からとられた名前です。新潟県は全国有数の米どころで、2006年の収穫量では、(⑦)について日本で第2位の米の産地です。よいお米ができるには、土が稲に適していることのほかに〔 C 〕が必要ですが、新潟県はこれらの条件をそなえているのだそうです。

さらに新潟県の農業が、今までにどのように移り変わってきたかを調べました。まず新潟県で農業を行っている人(農業従事者数)を見ると、次のようになっています。

表2 新潟県の農業従事者数(人)

	15～29歳	30～49歳	50～59歳	60～64歳	65歳以上	合 計
1975年	100,371	220,200	100,511	40,781	56,964	518,827
1985年	56,129	161,562	113,628	44,335	65,779	441,433
1995年	31,412	122,877	68,655	45,891	91,975	360,810
2005年	25,472	60,832	51,678	21,417	86,620	246,019

(『新潟県統計年鑑』より)

このような変化の一方で、この30年の間に米(水稻)の収穫量がどのように変わってきたかも調べてみました。

表3 新潟県の米(水稻)の収穫量(トン)

1975年	905,500
1985年	819,400
1995年	687,600
2005年	652,200

(『新潟県統計年鑑』より)

問14 文中の(⑦)にあてはまる都道府県名を答えなさい。

問15 文中の〔 C 〕にあてはまる文を作りなさい。

問16 表2の数字をもとに、60歳以上の割合がよくわかるようなグラフをかいてみました。解答用紙にある1975年の例にしたがって、残りの3つの年の分を完成させなさい。

問17 今までみてきた表2、表3や、問16でかいたグラフからわかることを、まとめなさい。

問 1 ① ② ③

④ ⑤

問 2 問 3 問 4

問 5 条約 問 6

問 7 問 8

問 9

問 10 発電 発電 ※

問 11 (1)
(2)
(3) ※

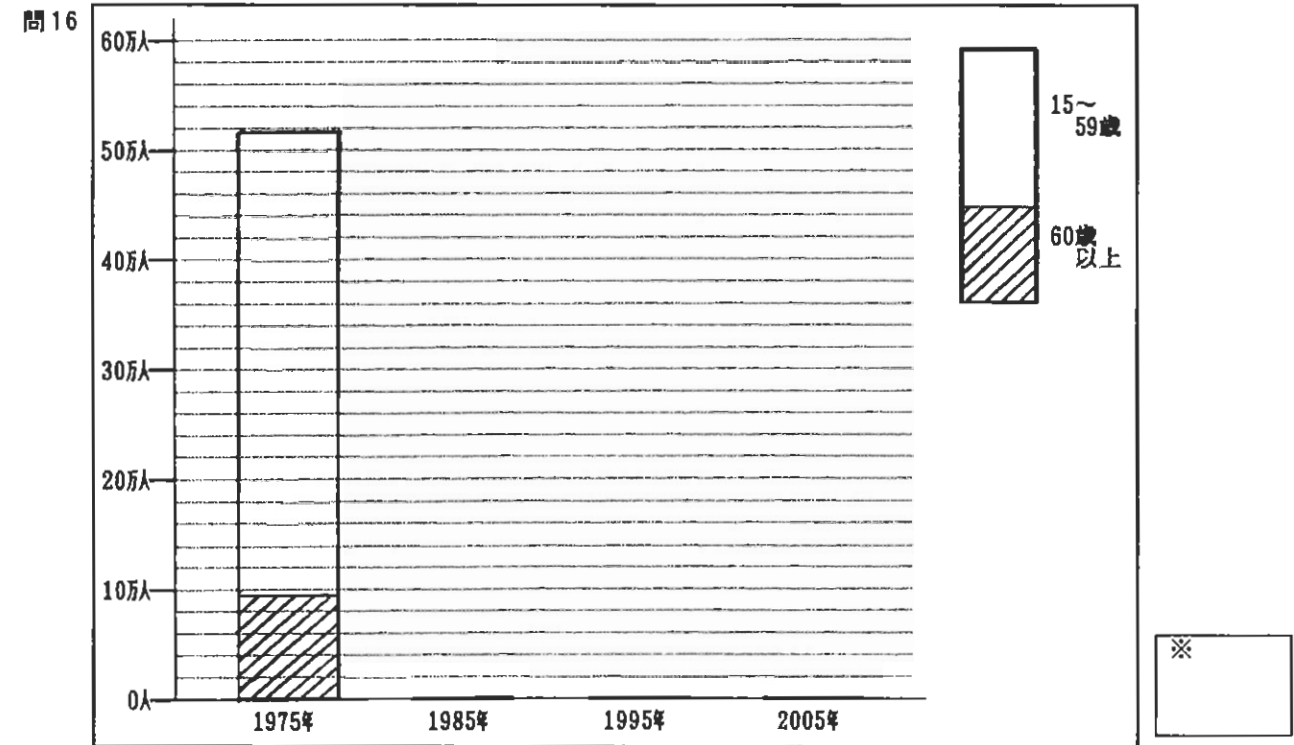
問 12

問 13

 ※

問 14

問 15
 ※



問 17

 ※

受験番号 番 氏名

※
評点